

〈連載(315)〉

フェリー乗り比べの旅



大阪経済法科大学・客員教授
池田 良穂

ずいぶん昔から船仲間と「フェリー乗り比べ」というキャッチフレーズの旅を楽しんでいる。いろいろなフェリーに乗船して、その違いを楽しもうというのが元々の趣旨だ。「船と港」「日本内航客船資料編纂会」という2つの船の趣味の会を解散した後も、日本クルーズ&フェリー学会として、クルーズ客船やフェリーの乗船会を続けており、学会としてブリッジの見学をさせていただいたり、船上で講演会をしたりして、少しだけアカデミックな要素も付加されている。

特に新造フェリーの乗船会を行うときには、建造所の技術者に船上での講演を依頼すると旅の評判も高くなる。趣味人だけの乗船会とは違って、海運や造船のプロの方も参加しているので、俄然、得られる技術情報も広くて深いのが嬉しい。ブリッジ見学をさせていただける場合には、船長以下、船員の方の生の声を聞くことができ、現場主義をモットーとしている筆者にとっては貴重な時間だ。

昨年は、大洗から商船三井フェリーの「さんふらわあふらの」に乗り、苫小牧に上陸

後、北海道の大地を貫く高速道路をチャーターバスで駆け抜けて、小樽から新潟まで新日本海フェリーの「らべんだあ」に乗船するという、船中2泊の弾丸ツアーを実施したところ、全国から30名余りの会員が集まった。

「さんふらわあふらの」は、JMUの横浜造船所で建造されて、IHIの2重反転プロペラを採用した省エネ船で、船内デザインは商船三井客船の「にっぽん丸」の改装デザインを手がけたデザイナーが監修したという。夜に大洗をでて、翌朝は三陸沖を航行して昼頃に苫小牧に到着するので、夕食、朝食、昼食を船上のレストランで食べる事ができた。

小樽から新潟まで乗船した「らべんだあ」では、グリルでのコース料理を楽しむことができた。新日本海フェリーは、カフェテリア式のレストランと共に、リッチな雰囲気夕食が楽しめるグリルを営業しており、まさに本格的なクルーズ客船の中で食事をしているかのような雰囲気が味わえる。この船は三菱下関造船所の建造で、ユニーク

な垂直船首形状で抵抗を減らすと共に、2枚のプロペラを中心にぎりぎり近づけて推進効率を上げる隣接2枚プロペラを採用している。

また、この6月の週末を利用して、(株)フェリーさんふらわあの新造船「さんふらわあさつま」で、大阪～志布志往復の2泊3日の「鹿児島・船三昧ツアー」を学会で企画。こちらにも30名弱の参加者が集まり、船上で乗船して船会社の戦略や、建造所からの船に関するご講演をいただき、その後、往復の新造フェリーの船旅と、鹿児島では停泊中の奄美・沖縄航路の「クイーンコーラル8」の見学をさせていただき、桜島フェリーへの乗船、鹿児島港の内航埠頭でのシップウォッチングと、まさに船三昧の旅を楽しむ予定にしている。

このように、長距離フェリーの新造が相次いでおり、モーダルシフトとドライバー不足という社会的要請を追い風に、さらに新造船効果も相まって需要が堅調に伸びている。さらに、世間のクルーズブームも一役買っているようで、旅客および乗用車需要も堅調という。

かつて、フェリーでも旅客輸送部門は、手間ばかりかかって儲からないという風潮が定着して、船内旅客サービスの質が落ち、フェリーのレストランと言え「食事はまずくて高い」とされ、ほとんどの人が乗船前に食べるか、お弁当を持ち込んで食べるかしていた。こうしてフェリーのレストランを利用する乗客の数は減り、質もサービスも落ちるといふ負のスパイラルに陥って

いた。また船内にくつろげるスペースが少なく、「居場所がない」といった悪評がたっていた。

しかし、最近登場するフェリーでは、レストランの質もサービスも向上して評判も上がり、「まずくて高い」といった声を聴かなくなった。理由は、トラック輸送が堅調で、ベースロードが確保されて経営的には安定しており、残る収益源として旅客にスポットライトがあたっており、船上の乗客消費がフェリーの経営上ある程度重要となってきたことにあるようだ。

欧州のクルーズフェリーでは、運賃収入と船上売上収入が拮抗している場合も多い。コース料理の高級レストラン、バイキング式レストラン、ファストフードレストランといった多様なレストランを設け、飲み物を守るバーも船内にいくつもあり、さらに大きなスーパーマーケットと、いろいろな商業施設を整えている。また、海を眺めながらゆっくりできるスペースや、ペットと一緒に過ごせる部屋、ドックラン、さらに露天風呂がある船まである。

さて、最近、新聞のツアー広告等でも、新造フェリーの上級キャビンを使った「船旅」をキャッチフレーズに使ったものをよく目にするようになった。中には、長距離フェリーを乗り継いで日本一周の旅をするというものまである。

本格的なクルーズ客船での船旅はいささか敷居が高いと思っている人々が、フェリーの船旅に流れ込んでいるのかもしれない。しかも、船だけでなく、陸上の高級宿、特別列車等と組み合わせたツアーが多い。これまで旅と言え、列車と宿だけだった

人々に、船旅の良さを知ってもらうためには、こうした複合化したツアーも効果的であろう。

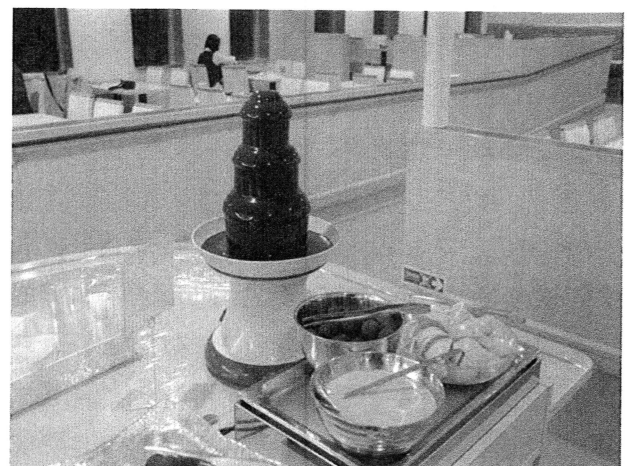
長距離フェリー創設50年の記念の年に、ぜひ、長距離フェリーの船旅をお楽しみいただきたい。



大阪南港～志布志(鹿児島)を結ぶ(株)フェリーさんふらわあの新鋭船「さんふらわあさつま」



瀬戸内海航路の新鋭船「フェリーおおさかⅡ」の夕食バイキングの多彩な料理



デザートにはチョコレート・フォンデュのタワーが!!